



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

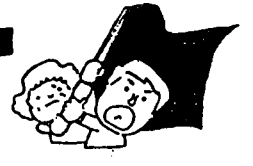
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.3.7 No. 3174

千葉支社

## 12名の即時採用を求め!

# 鉄局の申し入れ拒否



鉄局の申し入れ

三月三日、降りしきる雨の中、一〇〇名の組合員が清算事業団の仲間を先頭に、支社にむかった。地労委命令を守り、十二名の即時採用を断固要求するためである。

だが、そこに待ちうけていたのは、冷たい錠のかかった鉄のトビラと、その中でうすら笑いをうかべている支社の課員どもである。組合員の怒りは、爆発した。「地労委命令を無視するののか」「今すぐ採用せよ」「違法行為の上塗りには許さないぞ」等々とするどい追及がつづく。道ゆく人々か

ら「がんばれ」といった声援も送られる。三〇分後、ついに、当局



3.3千葉駅大喧嘩にうってでる。



は耐えきれなくなり、代表団を受け入れる。水野動労総連合委員長と山口交渉部長、林事業団支部長を入るとあわててトビラを閉じる。参加者の怒りは、さらに激しい抗議となり、その熱気は、そのまま駅頭宣伝に引き継がれた。

鉄局の申し入れ

駅頭は、一〇〇名の組合員によって制圧された。宣伝カーのアジテーション、元気よいビラ配布、正面には二本の横断幕が掲げられ、その脇では真紅の組合旗がはためいている。土曜日の夕方とあって人

通りも多い。普段のビラまきでは一割受けとればいい方であるが、今日は全然違う。来る人、来る人がビラを受けとり、読みながら駅にむかう人、折ってポケットにしまう人等、反応の良さに驚かされる。なかにはカサをさしながら立止って組合員と熱心に話し合っている高令の男性もいる。時間は一時間と短かったが、その間に四人の通行人から握手や激励を受けた。こうした経験ははじめてである。手ごたえ十分というのが、実感であった。われわれの正義性、正当性を徹底的に宣伝するチャンスであるといえよう。

# 大規模宣伝イベント

夜の「緊急」集会は、駅頭宣伝隊と勤務終了者が合流し、二〇〇名の熱気あ

る集会としてかちとられた。地労委勝利の上になつて、腹をすえて三月決戦に挑む

## 女性救済会

緊急集会に200名結集



ことがガッチリと確認される。事業団の仲間と、JR本隊組合員、そして弁護団が一体となつてかちとった勝利命令を、一枚の紙切れに終らせるのか、それとも実力奪還の「武器」としていかしめるのかは、これからの闘いにかかっている。三月決戦は、JRの異常な体制の変革をかけた決戦でもある。総行動をやりきる中から、万全なスト体制を築きあげることが全体で確認された。

